



ゆう科学通信

Vol.7

SEP.

9月

2015年9月11日発行

発行: 八雲志人館

〒690-2102
島根県松江市八雲町東岩坂3442-9
電話・FAX 0852-54-1023
E-mail/shijinkan@bell.ocn.ne.jp

一村一志

「夢の芽生える文化」創造のプラットホーム
「八雲志人館」は、将来に向けて持続可能な
地域を創出することをめざして活動します。

すっと、ふすまが開いた。白地の浴衣（ゆかた）に、ヘコ帯をきりつと締めた長身の男が現れた。一座、息をのみ、ざわめきが消えた。口ひげをたくわえた細面（ほそおもて）の肌が浴衣地より白い。やや寸足らずの裾（すそ）を合わせる仕草をして、男は着座した。「日本流の席では、この恰好がよほど気楽でいいんです」と、つかえがちながらも、江戸弁の薰りのする日本語で言った。途端に一同、どつと沸き、杯をもつて男を囲み、酒宴が始まった。——1895年（明治28年）7月23日、松江市宍道湖畔の料亭「臨水亭」での一齣を、当時の「山陰新聞」の記事をもとに、小説風に描いてみました。浴衣姿の男の名はウイリアム・キンモンド・バルトン。今日、「日本の衛生工学・上下水道の父」と称えられる人物です。

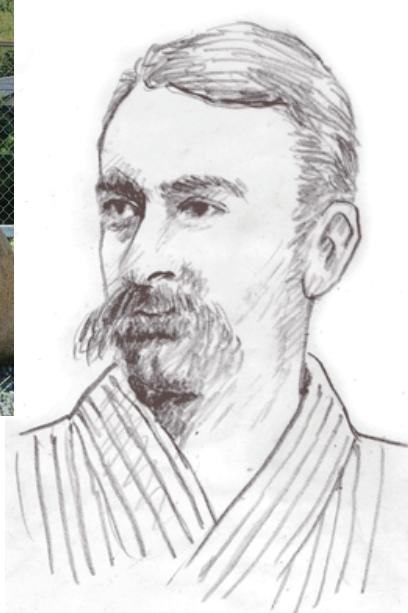


イラスト: 寺戸良信



バルトン顕彰碑

バートン来松百周年記念碑

バートン来松百